

実習施設完結型 pccOSCE トライアル —薬局での実施概要と得られた知見—

原 正朝
総合メディカル株式会社

2019年度に全国薬学部・薬科大学を対象に実施した改訂モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習実施に関するWEB調査の結果、概略評価の到達度が「3以上の学生が6割未満である項目」として、「処方設計と薬物療法の実践」が該当していることが明らかになった。2020年10月11日に参加した、薬学実務実習における「処方設計と薬物療法の実践」の質的向上を目的とした実習施設完結型 pccOSCE 構築のためのワークショップで、私のグループは学生到達度が低い要因として以下の3つを抽出した。

1. 現場の薬剤師は、患者の問題点抽出や確認を頭の中で行っており、特に問題がない場合は問題がないと判断したプロセスを明示的に書き出すことは行っていないが、学生は問題点の有無にかかわらず、常に書き出しを行わないと問題点の抽出・確認を行っているのか議論ができず、結果的に問題点の抽出ができていないと判断されている可能性があること。
2. 日本薬剤師会の平成27年度全国薬局疑義照会調査報告書によると薬学的疑義照会率は2.1%であり実習中に疑義照会が必要な患者に対応する機会が少ない可能性があること。
3. 実習期間中に対応した患者に継続して対応することができず、実習期間中に患者の問題解決状況が確認できない場合があること。

●当社さうごう薬局旭店で実施した、実習施設完結型 pccOSCE のトライアル実施概要と得られた知見を報告する。

○実習施設完結型 pccOSCE トライアル実施概要

1. 患者同意の上、指導薬剤師から指示を与えず、学生自身で患者対応を行う。
2. 患者対応後、学生が対応を通じて得た気づきや考えを指導薬剤師と意見交換する。
3. 学生の患者対応を継続し、学生へ指導とフォローアップを実施。
4. 実習最終週に学生自身で再度患者対応を行い、指導薬剤師との意見交換を実施。
5. 学生の到達度を指導薬剤師が評価。

○得られた知見

指導薬剤師が pccOSCE において、患者対応ごとにフォローアップや指導を継続することで、学生自身が意欲的に実習に取り組んでいることを実感した。指導薬剤師が学生の患者対応後に、学生が何を考えて、どのように行動したのかを学生に確認することは、学生の到達度を確認する上で有効であった。